

農政時流

前宮城県農業会議会長 森谷尚生 書

第8号/平成17年9月20日発行

宮城県農業会議

仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL/022-275-9164

E-MAIL/04miyagi@nca.or.jp

< 主な内容 >

- | | | | |
|---|-------------------------|---|-----------------------------------|
| 2 | 第19回農業委員選挙結果 | 5 | 市町村農業委員会会長紹介 |
| 3 | 新役員紹介 主張「新農業委員に期待する」 | 6 | 緊急要請活動を実施 |
| 4 | 常任会議員紹介 | 7 | 農地と担い手を守り活かす運動 農業委員調査結果の概要（速報） |

就任に当たって

宮城県農業会議 会長 中村 功



去る8月9日開催の宮城県農業会議臨時総会において会長に選出されました6号会議員の中村功でございます。歴史と伝統のある宮城県農業会議の会長をお引き受けし、初心に帰り農政問題と向き合う覚悟しております。微力ではございますが、本県農業並びに農業委員会系統組織発展のため最善の努力をいたす所存でありますので、森谷尚生前会長同様、格別のご支援をお願い申し上げます。

先ず、9月1日に仙台国際センターで開催された「平成17年度東北・北海道農業活性化フォーラム」が皆様のご協力により盛会裡に終了することができましたことに感謝を申し上げます。

私は稲作を中心とした専業農家として頑張ってきましたが、豊作を素直に喜べない、また、政治の場で農業の重要性が十分に理解されないことに、このままでよいのかとの自問自答の日々を過ごしておりましたが、地域の皆さん方からご支援をいただき、平成7年に遠田選挙区から県議会議員に当選し、現在3期目を迎えております。この間、農業問題をライフワークとして産業経済委員会を中心に活動して参りました。

去る3月25日に新たな「食料・農業・農村基本計画」が閣議決定されましたが、認定農業者・集落営農などの担い手育成・確保、経営所得安定対策などについて現場の意見を踏まえ、しっかりと主張していかなければならないと考えておりま

す。特に県担い手育成総合支援協議会を中心に認定農業者の倍增運動に取り組んでおりますが、評価主義全盛の時代でもあり、農業者から見え、集落・地域から評価される前向きな活動を展開していく必要があると考えております。

現在、本県では私が、平成12年に議員提案した条例制定に関わり、翌年10月に策定された「みやぎ食と農の県民条例基本計画」について、農業内外の変化に対応するため、見直し作業が行われております。今後の本県における食のあり方や農業の振興に関する指針でありますので、「優良農地の確保及び有効利用」、「意欲ある活力に満ちた担い手の育成・確保」等に行政委員会としての役割をしっかりと受け止め、行動していく必要があります。

農業委員会系統組織を巡ります情勢は、規制改革・民間開放推進会議の中間報告（農地取得の自由化、農業委員会の第三者機関化等）や農業委員会交付金の税源移譲問題など厳しい状況にありますが、これらは、農地・農業委員会制度の根幹に関わる問題であり、大変憂慮しております。こうした動きに対しては、系統組織一丸となり要請活動等を展開して参ります。

最後になりますが、戦後60年を経過し、「時代の要請」や「改革」という大きなウネリの中にありますが、将来を見据え「活力と魅力ある農業・農村」の構築のため、皆様方と共に歩んで参りますので、ご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。会長就任の挨拶といたします。

874人の新農業委員誕生・女性農業委員は26人に

～第19回農業委員選挙結果～

第19回農業委員選挙が、県内45市町村（85選挙区）のうち、37市町村（75選挙区）で7月10日と24日に実施されました。投票が行われたのが4市町（6選挙区）で、33市町村（69選挙区）は無投票で農業委員が選任されました。

今回の選挙は、昨年の農業委員会法の一部改正や今年3月に閣議決定された新たな「食料・農業・農村基本計画」、地方分権、市町村合併等、農業委員会を取り巻く情勢が大きく変化する中で行われました。

選挙の結果、県内の農業委員数は1,186人から312人（26.3%）減の874人となりました。内訳として、選挙委員は改選前の895人から238人（26.5%）減の657人、選任委員は改選前の291人から74人（25.4%）減の217人となりました。このうち、選挙・選任を合わせた新任の農業委員は167人で、農業委員総数の18.9%となっております。

今回の定数減の主な要因は、今年4月の市町村合併や組織の見直しによる削減などによるところが大きいと考えられます。

市町村合併は4地域28市町村で行われ、栗原市、登米市、石巻市、東松島市の4市が新たに誕

生しました。このうち栗原市、登米市の2市において部会が設置されました。

今回の改選では、昨年の農業委員会法の一部改正を踏まえ、選任委員として新たに土地改良区から32人が選出されました。

一方、従来から女性等の農業委員登用を関係機関等に要請しておりましたが、女性は19人から7人増の26人となりました。

また、農業委員会の一部改正により選挙委員の現行下限定数10人を廃止して市町村条例に委任することが出来るようになり、県内では、今回の選挙から4農業委員会が下限定数を市町村条例で10人以下に改正されました。

このように、市町村合併に伴う農業委員数の大幅な削減や規制改革・地方分権、三位一体改革など農業委員会組織を巡る状況は大きく変化していますが、農業者の公的代表としての農業委員会の位置づけや農業委員の役割を再確認し、新たな地域農業の創造を目指した「行動する農業委員会」としての取り組みが今強く求められています。

地域農業の活性化に向けて、ご健勝で組織一丸となったご活躍を祈念しております。

（佐藤 雄一）

平成17年度宮城県農業会議臨時総会を開催



去る8月9日、仙台市内のホテル白萩で平成17年度宮城県農業会議臨時総会が開催されました。

今回の臨時総会は、平成16年度事業報告及び収支決算と会則の一部改正についての承認並びに役員（正副会長）・監査委員を選任するため開催されたものです。

はじめに、眞籠会長職務代行者（副会長）より開会の挨拶を行い、その後、来賓として宮城県知

事（代理：高橋伸康 宮城県産業経済部農林水産局長）殿、宮城県議会議長の伊藤康志殿、宮城県農業協同組合中央会会長の木村春雄殿から祝辞をいただきました。

議事に入り、平成16年度事業報告及び収支決算と会則の一部改正について、原案どおり承認されました。その後、役員（正副会長）と監査委員の選挙が行われ、会長に中村功氏（県議会推薦）、副会長には佐藤公夫氏（大和町）、千葉幸雄氏（栗原市）、また、監査委員には佐藤昭雄氏（丸森町）、遠藤征悦氏（多賀城市）、佐藤晃氏（松山町）が選出されました。

最後に、「農業委員会交付金確保に関する要請」を決議し、政府・県選出国會議員に要請活動を行うことで総会を終了しました。

今後は、この新体制で農業委員の皆様方と一体となり、優良農地の確保と有効利用、担い手の確保・育成等の活動を推進することにしております。

（佐藤 雄一）

新役員紹介

| | |
|---|--|
| <p>会 長</p>  | <p>中 村 功(55)</p> <p>農業会議常任会議員 宮城県議会議員：3期</p> |
| <p>副会長</p>  | <p>佐 藤 公 夫(66)</p> <p>農業会議常任会議員 大和町農業委員長 農業委員：9期 (うち会長2期)</p> |
| <p>副会長</p>  | <p>千 葉 幸 雄(65)</p> <p>農業会議常任会議員 栗原市農業委員長 農業委員：10期 (うち会長5期)</p> |
| <p>監査委員</p>  | <p>佐 藤 昭 雄(76)</p> <p>丸森町農業委員長 農業委員：6期 (うち会長1期)</p> |
| <p>監査委員</p>  | <p>遠 藤 征 悦(67)</p> <p>多賀城市農業委員長 農業委員：5期 (うち会長2期)</p> |
| <p>監査委員</p>  | <p>佐 藤 晃(68)</p> <p>松山町農業委員長 農業委員：5期 (うち会長2期)</p> |

※ 敬称略

～主張～

「新農業委員に期待する」

宮城県産業経済部長

えん どう まさ あき
遠 藤 まさ あき
遠 藤 正 明



はじめに、各市町村農業委員会の委員各位並びに宮城県農業会議に対しまして、本県農業の各種施策推進において、多大なご協力をいただいておりますことに、厚くお礼申し上げます。

さて、昨今の農業を取り巻く状況を見ますと、本年3月に国の「食料・農業・農村基本計画」が閣議決定され、今後の農業施策の大綱が示されました。柱となる項目が、①「農業及び農村に関する施策についての基本的な方針」、②「食料自給率の目標」、③「食糧、農業及び農村に総合的かつ計画的に講ずべき施策」、④「施策を総合的にかつ計画的に推進するために必要な事項」であるところは、関係各位ご承知のところと思います。

この中で、農業委員会系統組織に深く関連するところは、「農業の持続的な発展に関する施策」に謳われている「望ましい農業構造の確立に向けた担い手の育成・確保」と「農地の有効利用の促進」に加えて、「団体の再編整備に関する施策」の部分であると考えられ、この点においての農業委員各位のご活躍が期待されるところであります。

農業委員会の活動・組織のあり方におきましては、行政改革の流れの中で、平成16年11月に改正農業委員会法が施行されました。

今回の改正を踏まえて、今後の農業委員会の活動が国の新たな基本計画と整合して、各地域の農業の発展にいかに関与できるかが大きな課題になると考えられます。

一方、地方分権と平成の大合併の流れの中で、本年4月には市町村数が45になるとともに、一部の農業委員会が再編されるという新たな局面を迎えたところであります。合併に伴い委員数も削減され、一人当たりの担当面積も広がり、これまで馴染みのなかった地域の農業事情にも細かい目配りのできる人材が求められることとなりました。

県においては、平成13年策定の「みやぎ食と農の県民条例基本計画」を行い、本年度内に改訂し新たな方向性を示すこととしているところです。

これら諸般の農業環境の変化や各種農業施策の変遷の中で、今後とも地域農業の要衝を担う各農業委員会・農業委員の皆様方におきましては、時流の要請に機敏に対応し、柔軟でスピーディーに活動されることを期待するところであります。

常任会議員紹介

1号会議員(12名)

| | | | | |
|---|--|---|---|---|
|  白石市(☆) 佐藤 勇二(71) 農業委員：3期 |  柴田町 根元 定雄(66) 農業委員：5期 |  仙台市(☆) 渡邊 龍彦(63) 農業委員：8期 |  山元町 大橋 勇夫(63) 農業委員：6期 |  大郷町 鎌田 寛(65) 農業委員：5期 |
|---|--|---|---|---|

| | | | | |
|--|--|--|---|---|
|  三本木町 相澤 叡(63) 農業委員：5期 |  岩出山町 大沼 洪悦(76) 農業委員：11期 |  田尻町 羽生 正明(67) 農業委員：5期 |  登米市 石川 雄紀(69) 農業委員：3期 |  石巻市(☆) 三浦 康男(68) 農業委員：6期 |
|--|--|--|---|---|

2号会議員(1名) 3号会議員(1名) 5号会議員(2名)

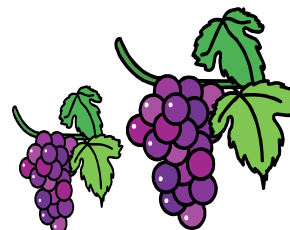
| | | | | |
|---|--|---|--|--|
|  東松島市 川田 利雄(64) 農業委員：7期 |  唐桑町 千葉 貫三(71) 農業委員：8期 |  宮城県農業協同 組合中央会(☆) 木村 春雄(64) |  宮城県農業共済 組合連合会 浅野 衛(63) |  宮城県農業公社(☆) 伊藤 孝雄(63) |
|---|--|---|--|--|

6号会議員(7名)

| | | | | |
|---|--|---|---|---|
|  宮城県土地改良 事業団体連合会 村上 格(63) |  全国共済農業協同組 合連合会宮城県本部 浅野 光二(58) |  宮城県農業法人会議 阿部 雅良(50) |  学識経験者 大木 れい子(73) |  宮城県町村会(☆) 佐藤 仁一(54) |
|---|--|---|---|---|

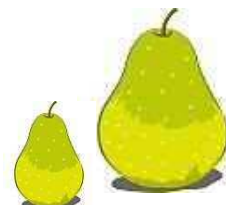
| | | |
|---|--|---|
|  宮城県認定農業者 組織連絡会 二瓶 幸次(55) |  宮城県指導農業士会 芳賀 よみ子(56) |  全国農業協同組合 連合会宮城県本部(☆) 松井 俊幸(54) |
|---|--|---|

※ 敬称略
(☆)印は新会議員



市町村農業委員会会長紹介

| | | | | |
|--|---|--|---|--|
|  <p>角田市 八巻喜代之助(79) 農業委員：7期</p> |  <p>蔵王町(☆) 樋口 俊彦(64) 農業委員：3期</p> |  <p>七ヶ宿町(☆) 佐藤 文昭(63) 農業委員：4期</p> |  <p>大河原町 佐藤 時雄(76) 農業委員：10期</p> |  <p>村田町 八巻 勇蔵(63) 農業委員：2期</p> |
|  <p>川崎市 鈴木 十二夫(82) 農業委員：3期</p> |  <p>塩竈市 前木 昭次(77) 農業委員：14期</p> |  <p>名取市(☆) 渡辺 憲二(61) 農業委員：5期</p> |  <p>岩沼市(☆) 星 隆男(73) 農業委員：3期</p> |  <p>亶理町(☆) 土生 利昭(71) 農業委員：8期</p> |
|  <p>松島町(☆) 丹野 清(66) 農業委員：6期</p> |  <p>七ヶ浜町 渡辺 庄哉(70) 農業委員：3期</p> |  <p>利府町 佐藤 豊美(57) 農業委員：5期</p> |  <p>富谷町 三浦 紘一郎(62) 農業委員：11期</p> |  <p>大衡村 堀籠 吉實(55) 農業委員：4期</p> |
|  <p>古川市(☆) 中川 洋一郎(61) 農業委員：8期</p> |  <p>加美町 兎原 伸一(56) 農業委員：6期</p> |  <p>色麻町 佐藤 貞善(55) 農業委員：5期</p> |  <p>鹿島台町 岡本 安吉(69) 農業委員：6期</p> |  <p>鳴子町 上野 忠志(72) 農業委員：7期</p> |
|  <p>涌谷町 佐竹 榮一(69) 農業委員：9期</p> |  <p>小牛田町 引地 順(64) 農業委員：6期</p> |  <p>南郷町 安住 恭一(63) 農業委員：5期</p> |  <p>女川町 佐藤 長六(68) 農業委員：8期</p> |  <p>気仙沼市 小野寺 庄市(67) 農業委員：7期</p> |
|  <p>志津川町 遠藤 重幸(55) 農業委員：4期</p> |  <p>本吉町 佐藤 憲行(56) 農業委員：3期</p> |  <p>歌津町 山内 孝三(69) 農業委員：11期</p> | <p>※ 敬称略 (☆) 印は新会長</p> | |



かけはし

石巻市農業委員

こはらた りょう いち
小原 良 一 さん(34)



☆経営内容

水稲 1.5ha, 作業受託 18.5ha,
育苗 5,000 箱,
施設野菜 2,000 m²(トマト, パプリカ)

就農した時には水稲主体でしたが、首都圏を中心に販路を開拓して、施設野菜等をデパート等と契約栽培しています。県青年農業士会の副会長をしていますが、情報交換などで担い手同士の連携を大切にしています。

地域の方々の後押しと、若い世代の考え方ややり方を取り入れることで良い意味での風穴が開けばと思い、農業委員に立候補しました。遊休農地も集積して担い手や認定農業者に任せる等、地域によって特色のある多様な農業が展開すると思います。目標は「夢と希望の持てる農業経営」です。

名取市農業委員

ほら ぐち こ
洞 口 のり子 さん(43)



☆経営内容

水稲 2.7ha,
畑 70a(季節野菜多種),
農産物直売所「ポパイの恋人」

日曜日に開く直売所と、市内の大型スーパーに仲間と朝採り野菜を毎日出荷しています。都市農業は、消費者との共存が大切です。宅地の中の小さな農地も耕作すれば、消費者に農業を理解してもらう重要な役割を持っています。消費者との交流や食農教育の場として最大限に活用していきたいと思っています。

初めは私に農業委員が務まるのかと不安でしたが、「気軽に相談できるね」と声をかけられたことが嬉しかったです。農業者と行政の橋渡し役に努めていきたいと思っています。

緊急要請活動を実施

○ 規制改革・民間開放推進会議の「中間報告」に関する緊急要請

政府の規制改革・民間開放推進会議が取りまとめようとしている「中間報告」の内容が明らかになりました。

その内容は、①一般の株式会社を含めた農地の賃借に関する自由化等の自由な権利取得、②農業委員会について、委員構成や選任方法を大幅に見直し、学識経験者等中立的な第三者からなる体制とすること、等の主張が織り込まれています。

これは国民の食料供給基盤としての農地の重要性や農地の転用規制への影響、農業構造改革推進への支障をはじめ、農業や農業委員会の実態を無視した農地制度の改悪や農業委員会制度の解体につながるもので、決して容認できるものではありません。

よって、優良農地の確保と秩序ある土地利用を堅持し、健全な農村社会の構築を図るため、関係機関並びに県選出国會議員等に緊急要請を行いました。

○ 農業委員会交付金の確保等に関する特別要請

農業委員会交付金について、全国知事会等地方6団体は「平成18年度の国庫補助負担金等に関する改革案」において、交付金全額の税源移譲を求めています。

農業委員会交付金は、既に平成16年度から3カ年で2割程度の削減を実施するとともに、平成18年度より配分基準のうち農家数配分(25%)23億円の税源移譲を実施することで昨年決着されたところです。

これ以上の税源移譲は、新たな基本計画等農業構造改革や地域の農政推進に果たす農業委員会活動や役割の発揮が困難になります。

このため、8月9日に開催された臨時総会において、①税源移譲対象リストから農業委員会交付金を除外すること、②これ以上の税源移譲を行わないこと、を強く求める要請決議が全会一致で承認され、全国知事会等地方6団体や関係機関、県選出国會議員等に特別要請を行いました。
(千葉 敬記)

「みやぎ農地と担い手を守り活かす運動」の組織展開を！

今年3月に閣議決定された新たな「食料・農業・農村基本計画」の達成に向けて、担い手の確保育成、農地集積、遊休農地解消等、農業委員会の組織的取り組みが求められています。

この活動の一環として、今年から新たに、「みやぎ農地と担い手を守り活かす運動」に組織を挙げて取り組んでいます。

運動目標として、①食糧自給率向上のための優良農地を確保と次世代への継承、②認定農業者等の担い手確保と農地の利用集積を含む経営確立に向けた支援、③地域の実態に応じた農業及び農村の振興対策、を掲げています。

運動期間は、平成17年度から19年度までの3カ年となっています。

この運動の取り組みに当たって、最初にやるべきことは、地域の実情と特性、課題等を把握することです。これは、農業者の公的代表者である農業委員として大切なことです。農業委員一人一人が地域の実情把握に努め、活動記録ノートを活用

し、その結果の点検・確認を徹底しましょう。そして、これらの結果やデータを基に、課題解決に向けた活動方針と活動計画を策定します。「具体的に、何にどう取り組むか」優先順位を明確にして、数値での目標を設定した計画が重要です。

活動に当たっては、農業委員が、地域活性化に向け行動していると、地域にアピールすることが重要です。グリーン帽子と腕章を着用し、農業委員が積極的に活動していることが一目で分かるような行動をしましょう。農地パトロール、集落座談会、戸別訪問をはじめ、担い手への農地利用集積支援、市町村長への建議・要望等、農業委員の一挙手一投足が地域の活性化、ひいては新たな基本計画の目標達成につながります。

地域農業発展に向け、農業委員の役割や活動は欠かすことができません。農業委員を中心に系統組織一丸となり、この運動を展開し、成功させましょう。（森下 純一）



担い手や農地利用集積等についての農業委員調査結果の概要（速報）

本調査は、今後の農業委員会活動に資することを目的に、全国統一で改選前の全農業委員を対象に実施したもので、1,061名のうち896名(84%)の報告がありました。今回、その概要について中間報告いたします。

1 農業委員自身について

年齢は、60代(40.1%)が最も多く、次いで50代(39.4%)、70歳以上(16.2%)、40代(4.1%)、30代(0.2%)の順となっており、60代以上が全体の約6割と高齢化が伺われます。また、在任期間は1期目が30.2%と最も多く、次いで4期目以上(28%)、2期目(24.8%)、3期目(17%)の順となっています。年齢と在任期間は必ずしも一致していない状況が伺われます。更に、委員自身が認定農業者になっている方は266人おり、また、家族にいる方は84人で、併せると全委員のうち約4割が認定農業者となっています。

2 相談活動について

農業委員には、農業者の代表者・良き相談役として、日常相談活動や定例相談会・移動相談会等、重点的に取り組んでいただいております。過去1年間の相談総件数は15,985回と年間1人当たり平均18.6回で月平均1.5回の相談件数となっています。また、相談活動で

一番多いのは、「自宅やほ場での面談による相談活動」が29.1%で、次いで、「電話での相談活動」「個別訪問による巡回」の順となっています。更に、相談内容で多い項目は、農地関係が圧倒的に多く、このうち上位3項目を挙げると「農地の権利移動関係」、「農地転用関係」、「小作料関係」で、全体の過半を占めています。

3 認定農業者の確保状況について

担当地区内等の状況として「ほぼ目標が確保されている」と答えたのは28.3%、次いで、「担い手はいるが未認定農業者が多い」が26.9%とほぼ同じ割合となっています。一方、地域水田農業ビジョンで位置付けられた担い手について、「ほぼ全てが認定農業者」と答えたのは26.5%で、「現段階では誘導が困難である」が73.5%と最も多い。その理由として「担い手の規模・意欲ともに現状では誘導が困難」が56.6%と多く、また、担い手への農地集積が進まない要因として、「零細規模農家の営農継続」が35.5%、次いで、「農業者年金、税制などの制約により権利関係の設定ができない」の順となっています。

以上、概括報告を行いました。詳細は分析・とりまとめ後、報告いたします。

（小松 和明）



お知らせ

- **東北・北海道農業活性化フォーラム**
9月1日に仙台国際センターで、農業委員等1,100人が参加して盛会裏に開催されました。
- **経営構造対策事業等研究会**
9月12～13日に北海道、東北、北陸、東海地方のコンダクター等33人が参加して松島町で開催されました。来年度事業内容等の説明と地域文化研究所の氏家英雄さんから「農村指導者の在り方について」の話題提供がありました。
- **東日本ブロック農業委員会職員現地研究会**
10月3～4日に青森県三沢市内で「行動する農業委員会」確立のための相互研さんを目的に開催されます。
- **第8回認定農業者サミット**
10月27～28日に福島県郡山市で全国の認定農業者、農業法人、集落営農組織等2,000人が参加して「築こう未来の農業。」をテーマに開催されます。28日は6つのテーマに分かれて地域別に現地研修が行われます。
- **第49回宮城県農業委員会大会**
11月22日午後1時から大和町「まほろばホール」で県内の農業委員を参集し開催します。
- **農業者年金加入推進セミナー**
11月29日に東京都内で、全国の農業者年金協議会の会長等が出席して農業者年金制度の普及推進のためのセミナーが開催されます。
- **全国農業委員会会長代表者集会**
11月30日午後1時から東京都九段会館で全国の農業委員会会長等が参加して開催されます。

===「農政時流」読者の声募集===
紙面づくりの参考のためご感想をお寄せください。
F A X 022-276-3899
E-mail 04miyagi@nca.or.jp

農業委員会と地域の農業者・消費者との

「絆づくり」全国農業新聞運動 実施中！

～全国農業新聞でつなぐ人と農と未来への絆～

全国農業新聞は農業委員会系統の組織紙です。農業者に農業委員会の活動を伝えるとともに、経営とくらしを支える情報を提供しています。農業委員会が行う情報提供活動の柱として、全国農業図書とあわせた普及拡大に取り組んでいます。

*** 10～11月は普及強調月間 ***
農業委員1人1部の普及拡大をお願いいたします!!



オフ・タイム



もり 下 純 一 考査役



熊本生まれの九州男児で、誕生日は5月5日のこどもの日。そのせいか根っからの子煩悩で、お子さんの通う幼稚園行事の様子を「かわいいんだよねえ」と目を細めて話すところは、パパ業にも力が入っている様子です。結婚を機に新車を購入した際、奥さんの名前をもじったナンバープレート(348→ミヰ)を贈ったときには、奥さん大感激だったとか。(井澤 香子)

編集後記

眞籠前編集委員長の退任に伴い、編集委員長に就任いたしました副会長の千葉です。

系統組織を巡る情勢が内外共に大きく変化するなか、農地の有効利用や担い手の確保・育成をはじめ、農業構造改革に系統組織を挙げて取り組むことが求められております。

「農政時流」が、課題対応の一助となるよう、タイムリーな情報の提供や、よりよき情報交換の場となるよう紙面の充実に努めて参ります。

編集委員長 (農業会議副会長)
千葉 幸雄

